熊本県立宇土中学校・宇土高等学校
Kumamoto Prefectural Uto Junior and Senior High school

社会的孤立の恐怖
Fear of social isolation

岩村 倫子　山田 麻湧　山崎 蒼史　原田 紗希
Iwamura Michiko, Yamada Mayuu, Yamasaki Soshi, Harada Saki

We have found the correlation between the change of family types and less communication in the family members. We think it mainly causes the cases between parents and child. To our regret, however, the number of the nuclear families will continue to increase. So we think we should not only accept this fact but make the most of the related institutions and provide mental health care for people concerned.

１．はじめに

近頃，親子や家族間での痛ましい事件が多発している．気になったので調べてみると，警察が 2016 年に摘発した殺人事件（未遂を含む）のうち 55%が親族間で起きていたことが分かった．しかもこの割合は増加傾向にある．私たちは，このような事件が起こる背景には何が原因としてあげられるのか，またこれから似たような事件を起こさないためにはどうすればいいのかを，実際に起きた親子間の殺人事件を例に取り，調べた．

２．方法

親子間での事件を例に挙げて，そこから見えてきた事件の原因や社会的問題を掘り下げてインターネットで調べる．

３．結果

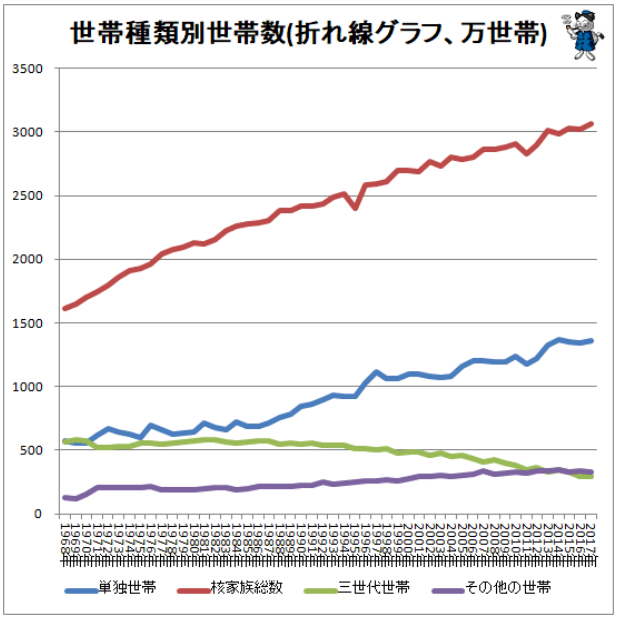
6 月 1 日に起きた元官僚息子殺人事件の概要を調べた．

○農林水産省の元事務次官の 76 歳の父親が 44 歳の長男を刺したとして逮捕された事件．
東京地方検察庁は殺人の罪で起訴．
現場…自宅　母親は当時不在
時間帯…午後 3 時半頃
殺害方法…胸などを包丁で複数回刺傷
　　長男は搬送先の病院で死亡
死因…首を切られたことによる失血死

[事件発生までの長男の様子]
・無職，ひきこもりがち
・両親への日常的な家庭内暴力
・twitter に両親への書き込み
　父親→官僚トップであったことを自慢
　　「2018 年 5 月支払予定分のご利用明細合計 323,729 円
　　これが今月の私のクレカの支払額だ．
　　君達の両親が必死で働いて稼ぐ給料より多いんだよ w」(twitter 投稿より)
　母親→見下していた
　　「貴様の葬式では遺影に灰を投げつけてやる」
　　「だから中 2 のとき，初めて愚母を殴り倒した時の快感は今でも覚えている」(twitter 投稿より)
・父親から定期的な金銭的支援を受けていた
●十数年前に一度家を出て一人暮らしをしていたが，近隣住民との日常的なトラブルなどを理由に 5 月下旬に実家に戻っていた
●近隣住民は息子の存在に気付いていなかった．

[事件当日]
隣接する小学校で運動会が行われていたことに対し長男が「うるせーな，子供ぶっ殺すぞ」と発言．これをきっかけに父親と長男で口論となり，殺害．父親は後に自首．
[逮捕後の父親の供述]
・川崎市で小学校児童など 20 人が死傷した事件が頭に浮かんだ．自分の息子が第三者に危害を加えるかもしれないと思った．

この事件から私たちは，今と昔の家族の在り方にどのような変化があったかを調べた．
①家族形態の変化

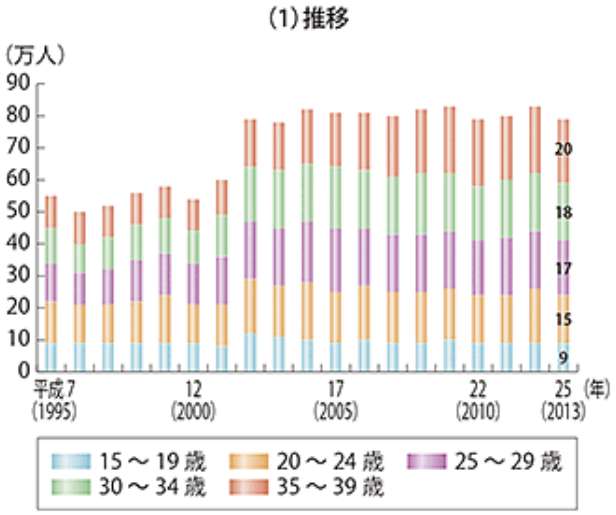


核家族の増加は地域コミュニティの変化，子育てに関する問題を顕著化する．祖父母に育児の一部を任せられない夫婦の時間は制約され，婚姻世帯における共働きの加速化や待機児童問題へも連動しうる．

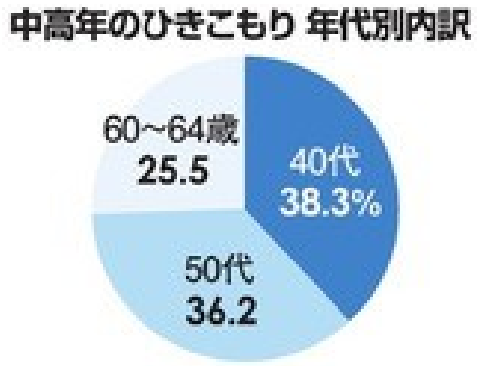
この核家族化の増加が家族間でのコミュニケーションの減少に繋がっていると裏付ける一つの例としてひきこもりの増加がある．

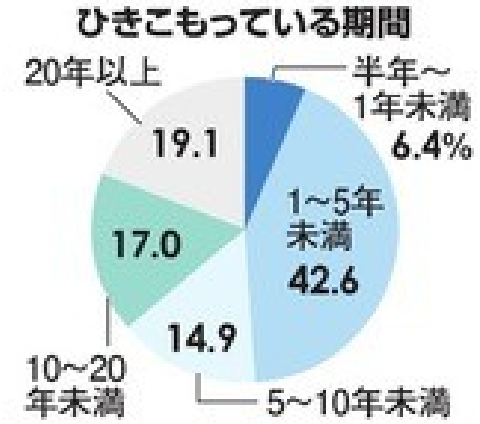
②ひきこもりの増加
[ひきこもりの定義]　(厚生労働省 HP より)
「仕事や学校に行かず，かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに，6 か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」と定義している。内閣府は 2019 年 3 月 29 日に，自宅に半年以上閉じこもっている「ひきこもり」の人数について，15～39 歳が推計 54 万 1 千人，中高年層 40～64 歳が推計 61 万 3 千人と調査結果を発表した．

(調査は，層化二段方式で無作為抽出した 199 市区町村 200 地点で実施．調査員による訪問留置・回収方法で，有効回答数は 3248 人（65%）)



↑若年無業者数





↑2018 年度内閣府の実態調査結果.

40~64 歳を対象に調査し，推計 61.3 万人.

「8050 問題」

1980 年代，ひきこもりが社会問題として取りざたされ，当時 10 代や 20 代であった若者のひきこもりが長期化し 30 年以上たった現在，親も高齢となり，収入源の多くが年金のみで，生活の困窮で社会から孤立化し引き起こされるという社会問題．主に 50 代前後のひきこもりの子どもを 80 代前後の親が養っている状態を指し，病気や介護といった問題によって親子共倒れになるリスクが指摘されている．名付けたのは大阪府豊中市社会福祉協議会の勝部麗子.

4． 考察

調査結果から，家族・親子間での事件は，些細なすれ違いが修復されないまま長い年月をかけて溝が深まり，最悪のケースとして殺人や傷害などの事件に繋がっていると考えた．また元官僚息子殺人事件以外にも多くの親子間事件を調べた結果，親が子を殺す時の動機は，虐待やネグレクトの延長線上の殺害など比較的身勝手なものが多くみられたが，子が親を殺すケースでは，親からの身体的・精神的虐待からの逃避や親の過度な期待や過干渉に追いつめられた故の犯行が多いように思えた．その理由として，子ども(特に思春期)は親から逃げ出すための手段が分からず，殺すという選択肢に向かう傾向にある.

5． 結論

今回の調査で，核家族世帯の増加と引きこもり件数に相関関係が見られたことから，昔に比べて今の家庭は家族観でのコミュニケーションをとる場が失われているように思う．かつての日本の家庭は子どもを親だけでなく祖父母，親戚，さらに近所の住民とも協力して，みんなで育てていたため，子育てのストレスも分散されていた．たとえ親子が喧嘩をしても周りが適切にフォローをし，悪い関係が長期化することはなかった．しかし時代が変わり，仕事を求め都会に移り住み親子のみで生活する核家族世帯が主流になってきてからは，子どもの世話を親だけで見なければいけない環境になり，近隣住民との関係の希薄化や，今まで家事・育児だけをしていた女性の社会進出も相まって，親の精神的余裕がなくなっている．その結果，親子間で一度亀裂が入ると自分たちでうまく解決できず，日々溝だけが深まっていき，最終的に恐ろしい事件が発生してしまうことが多くなっているのではないかと考えた.

親子間の関係の悪化やひきこもりについて相談する機関は調べてみると思っていた以上に多かったが，認知度は低いといえる．これからも核家族世帯の増加とともに家庭内の問題は増え続けると考えられるので，地域自治体や国をあげて PR 活動をおこなっていくべきだと考えた.

また，ひきこもりについて調べていくうちに，先日起こった川崎殺傷事件や元官僚エリート息子殺人事件の影響でひきこもりの人に対しての世間の風当たりやマスメディアの取り上げ方が強くなっているように思えた．しかし，本当にひきこもりの人は全員が殺人予備軍のような危険な人物なのだろうか.

二つの事件は，たまたまひきこもりが共通点であり，全体の事件の犯人の共通点は「社会的孤立」を抱えている事と考える．社会的孤立を抱えていながらもひきこもりでない人はたくさんおり，逆にひきこもりの現状を脱却しようと努力している人もたくさんいる．ひきこもり状態であるすべての人が危険という曲解した解釈をせず，そのような人が社会復帰しやすい雰囲気づくりを地域全体で作っていかねばならない.

6． 参考文献

特定非営利活動法人 KHJ 全国引きこもり家族会連合会 web
https://www.khj-h.com/
熊本県ひきこもり地域支援センター
https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_10789.html
朝日新聞デジタル
https://www.asahi.com/articles/ASM3R4DZQM3RULZU005.html

7． 謝辞

村田先生をはじめ，この研究に携わっていただいた先生方，関係者の皆様に深く感謝申し上げます.